1998 Milk Hall Times 50th

RAIN

その一

昭和二十三年六月十九日
その日は、実にひどい雨だったことを思い出す。前日から止む気配も無く降り続いていた梅雨というよりももっと思い感じであった。死体は何処にあるのか！僕はその三人の近くを眺め回した。（中略）「引き揚げた時、太宰先生と富栄さんの腰に、赤い腰紐が結ばれていたのですが、その紐はナイフで僕が切りました。山岸さん,このことは誰にも言わないでおいて下さい。」K君が早口にそう言った。
『山岸外史「人間太宰治」より』

その二

雨が激しくたたく真夜中、目が覚めると闇の中の点とした小さな明かりのもとに、ぼんやりと生家の天井があらわれる。
夢かと思い目をこらしてみると、小さな頃に恐ろしくてよく頭から布団を被って眠ったあのお化けのような大きな木目模様ががゆらゆらと、寝ている私を押しつぶすように迫ってくる。恐怖に天井を押し戻そうとすると、不吉なあたたかい風が私の顔を撫ぜ、天井はいきなり吸い込まれるようにぐんぐんと高く遠く家族たちの面影と共に消えて行く。飛んで行く天井を取り戻そうと手を伸ばしてももうもどらない。
そして、声にならない自分の叫びに目が覚める。
本当に目が覚めてみると、いつもの白い天井には小さな補助ランプが点いて窓の外は、静かになりかけた雨が降っている。
また、飛ぶ天井の夢を見た。

雨の夜に見る夢。荒れ果てた生家。ある事情があってその家を出てから、なんとなく家族はばらばらになっていった。古ぼけた家は、雨漏りさえしなかったものの少し強く雨が降ると屋根や壁を叩く雨の音は家中鳴り響き、板や土壁に雨がしみると何日も湿気を含んだ土や古木の匂いが鼻についたものだった。そんな記憶からなのか生家を出て二十年以上もたつと言うのにそんな夢を見る。
恐い夢だけれど目が覚めると懐かしい。
いつか、飛ぶ天井に手が届く時が来たら、私も家族たちの面影といっしょに空高く自由に、飛んで行くのだろうか。

その三

深夜になって突然、すごいどしゃぶりになった。今しがた終電に乗り遅れた仕事仲間の友人を、自家用のジープのオープンカーに乗せて送り出したところだった。借り物のジープで、さぞ途方にくれているだろうなんて話し合っていた。翌朝、随分早い時間に電話が鳴った。昨夜の彼である。大変だったでしょ。ああ、それより、昨晩ちょうどあの時間にS君が目白の明治通りで雨の中ハンドルを切り損ねて大事故だったらしい。S君はもうだめだ。彼女は大したけがもなくてね。そんなわけだから今日は仕事には出られないよ。そうそう車は今日中になんとか持って行くからさ。じゃあね。え？…

相月通信

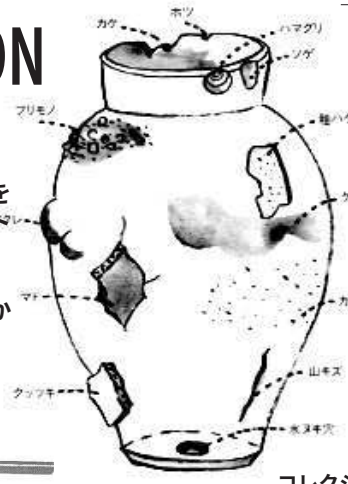
INFORMATION

ミルクホールタイムスも、今回で50号になりました。
創刊号からのバックナンバーをミルクホールのインターネットホームページにてご紹介しています。
まだ作業中にて、途中までしか掲載されていませんが、各号の掲載文も画面上読みやすくなっています。
http://www.milkhall.co.jp/

ミルクホール発行の印刷物についてのご意見ご感想ご希望などお寄せ下さい。
〒248－0006　鎌倉市小町2－3－8

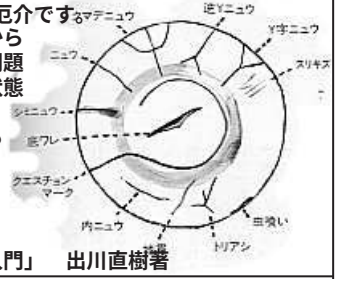
骨董品のキズについて

骨董品に慣れてくると、古陶のキズにも色々あることがわかってきます。
まず、骨董品のキズはあって良いものでしょうか？もちろんキズがないのに越したことはありませんが、一般的に言って時代の古いものより比較的新しいものほどキズが値段に影響します。土器などでは殆ど問題にされないキズでも伊万里などの磁器では価値がぐっと下がるというわけです。逆に予算がない場合はキズ物を上手に探せば、ちょっと買えないと思っていたものでもかなり入手しやすくなります。



カケ	一部がカケ落ちているところ
ホツ	ごく小さなカケ
ソゲ	口縁など原形を壊されないほどに薄くカケ落ちている
虫食い	口縁部分で小さく虫が食ったようなハゲがある
ニュウ	ヒビ割れているもの
トリアシ	底に中心から放射線状に出たニュウ
カセ	土や水中に長い時間あったため釉が風化しカサカサになったもの

ほかに、先天的な欠点、窯から出たときにすでに持っていた欠点のあるものを**カマキズ**、または**山キズ**といい、前記のキズ物とは分けて考えます。
よく**甘手**と言われるものはもともと焼成温度が低く甘い（もろい）仕上がりのもので傷つきやすい上に使っているうちにさらに弱くなっている物があります。表面の釉だけでなく本体そのものが痛んでいるものは扱いが厄介です。
コレクションとして、そのものの価値を見込んで買い、始めから使う目的がない場合は良いのですが、器として使う目的キズ物を買うなら、程度の問題ですが、甘手やトリアシは避けたほうが無難です。これらのキズは買ったときより状態が悪くなっていく可能性大で、修理もききません。カケ・ホツ・ニュウは、さほど気にならないですし、修理もきき、ニュウは、扱いによってあとで大きくなる場合もありますが、市販の瞬間接着剤で修理していればまず大丈夫です。
ミルクホールでも、キズ物伊万里の本金直しをよく扱います。伊万里は高価になり過ぎましたが、使いやすいのが魅力です。金がよく合いますし上手に修理すると半永久的に使えます。キズ物の利用で骨董世界を広げて見てください。



参考資料　新潮社　「やきもの蒐集入門」　出川直樹著